



# Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

## 評価報告書

フィジー共和国

— 2020年度 地域巡回機能回復等推進事業 —  
(終了時評価 2021年4月)

### 事業概要

国名	フィジー共和国
プロジェクト名	2020年度 FDAPIN VII プロジェクト (地域巡回機能回復等推進事業)
実施期間	2020年8月26日(覚書署名)～2021年3月31日
相手国政府覚書署名省 庁名及び実施機関	覚書署名省庁：水産省 (Ministry of Fisheries) 実施機関：水産省水産局

### プロジェクト実施の経緯と背景

フィジー共和国(以下「フィジー」という。)水産省は、2017年の「国家開発計画(5-Year & 20-Year National Development Plan)」の中で、食糧安全保障及び所得創出の観点から、製氷施設を含む Rural Fisheries Service Center(以下「RFSC」という。)の活用計画を掲げている。

このような戦略の下、同国政府は、RFSC等の水産関連施設の運営・整備を行っているが、同国の水産関連施設は、老朽化に伴う故障や運営管理の不備により本来の機能を発揮することができず、漁業開発の推進に支障を来している。

このため、フィジー政府は、公益財団法人海外漁業協力財団(以下「財団」という。)に対し、水産関連施設等の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言についての要請を行った。

財団は、我が国とフィジーとの漁業関係の重要性に鑑み、同国政府の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施した。



### 目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産性が向上し、小規模漁業が発展する。
プロジェクト目標	水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。
成 果	<p>ワークショップにクレーントラックを新たに導入したことにより、トラックのレンタルを繰り返す必要がなくなった。この結果、機動的な資機材の引き取りや運搬が可能となり、ワークショップの機能が向上した。また、製氷機の整備に必要な予備品をワークショップに不足なく配備することにより、各地の製氷機の故障に対し、予備品を用いた迅速な修理ができるようになった。中でも、結氷板が故障して不稼働となっていたナンボワル水産基地製氷施設については、ワークショップに配備した結氷板を使った修理・修復の OJT を通じ、ワークショップで勤務し、フィジー国内の製氷機の修理・修復にあたるカウンターパートらが、結氷板の交換に必要な技術を向上させることができた。</p>
活 動	ワークショップの機能充実のため、製氷機部品を補充しクレーントラックを導入するとともに、カウンターパートに製氷機の修理・修復に係る技術指導を行った。
投 入	<p><b>財団側</b></p> <p>1) 専門家 計画 巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 冷凍機器専門家 2020年12月初旬～12月中旬（約20日間）</p> <p>実績 巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 2020年11月30日～12月4日（5日間） 2021年1月6日、7日、13日（3日間） チームリーダー／漁船機関専門家 冷凍機器専門家 漁船機関・冷凍機器専門家 2021年2月17日～2月25日（9日間）</p> <p>延日数 計画 40人日 実績 35人日（計画対比：88%）</p>

	<p>2) 主な資機材 クレーントラック（積載重量約7トン）、製氷機部品、工具類</p> <p>3) 事業費 予算額 18,816 千円 実績額 21,066 千円（予算対比：112%）</p> <p><b>相手国側</b></p> <p>1) 主なカウンターパート Fisheries Officer, Ministry of Fisheries 2020年11月30日～12月4日 2021年2月18日～2月24日</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 製氷施設等技術移転に必要な施設の提供、水産局及び地方政府水産関連事務所における電気・水道・電話の無償提供</p>
--	--

## 評価事項

### ◆ 妥当性

#### 1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、フィジー政府が策定した開発計画に掲げる「RFSC の活用」に合致した事業内容であり、妥当と判断される。

#### 2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

フィジー国内には約24か所の水産支局があり、それぞれに製氷機が設置され、周辺漁業者漁業者の漁業活動を支えている。

フィジー政府は独自予算或いは財団事業で、老朽化した製氷機及び代替フロン機種への対応のため製氷機の交換を進めている。しかし、製氷機の予備品の在庫が十分でないため、一旦故障が発生すれば製氷機が稼働停止となる可能性が高く、現に故障し復旧できない状態になっているものがある。今回、修理対象としたナンボワル水産基地の製氷施設は、ブア州ナンボワル及び周辺のライセンス所有漁業者及び同島住民（ブア州人口15,466名）に利用される施設であるが、2020年3月時点ですでに結氷板が故障し、不稼働であることが確認されており、水産局からは修理の要請があった。また、ワークショップには製氷機運搬用及び設置用のトラックが無いため、製氷機交換の都度、民間業者からクレーントラックをレンタルしているが、年間のレンタル費用が数万ドルと嵩む上に必要な時に使用できず修理作業に支障を来している。予備品の補充及びクレーントラックの配備は、機動的、迅速な修理を通じて製氷機の安定的稼働に資するとともに、ひい

ては漁業者の安定的漁業活動の支援及び沿岸漁業開発への貢献をすることになり、協力ニーズとの整合性は高い。

### 3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、古い部品のうち使用可能なものはフィジー国内の同型製氷機の運転継続のための一時的な修理用部品として使用するほか、冷媒及び廃棄部品（結氷板等）の扱いについては、適切な回収装置を用いて保管されており、常に環境保全に配慮している。

### 4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図り、その運営・管理に対する助言を行うものである。今回の対象施設は製氷施設で、水産物の品質の向上を図るものであり、周辺水域の水産資源に対する漁獲圧力を増大させるものではない。

### 5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

## ◆ 効率性

### 1. 事業費及び実施期間

事業費は計画を上回ったものの、予定していた活動はすべて実施期間内に完了した。（予算及び計画対比：事業費 112%、実施期間 88%）

### 2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

専門家については、実施計画に基づき、2名をタイミングよく投入すると同時に、冷凍機専門家1名を、追加で投入することができ、計画よりも短期間でプロジェクト活動を完了した。専門家はそれぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

### 3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

技術移転の内容は、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われ、カウンターパートの習得水準に適合していた。

### 4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

サイクロンによる道路の損壊、河川の氾濫、停電等によりスケジュール変更を余儀なくされたが、実施計画を適宜見直し対応した。

また、ガス漏れを起こしていたナンボワル水産基地の製氷機の結氷板交換は緊急性が高かったが、プロジェクト開始時には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動規制により、専門家が離島 (Vanua Levu) にある対象サイトに行くことが可能か不透明であった。このため、カウンター

パートのみでの対応となることを想定して、ワークショップに予備の結氷板を補充した。実際には、専門家の対象サイト入りが可能となり、水産基地のメンテナンスを請け負うワークショップ機能強化の一環として、同水産基地にて結氷板の交換や関連する技術指導を行うことができた。

## 5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

### ◆有効性

#### 1. プロジェクト目標の達成度

##### ① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。

計画どおり水産関連施設の機能が強化あるいは回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの知識及び技術レベルは益々向上したことからプロジェクトの目標は達成された。

##### ② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

#### 2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

##### ① ワークショップの機能充実及び製氷施設の修理・修復に必要な技術指導

期待された成果：水産省が管理する製氷施設の修理・修復及び維持・管理に係る技術が向上する。

クレーントラックの導入等により、必要な時に機敏に対応できるようになった。

また、ナンボワル水産基地で製氷機の結氷板交換に係る技術指導を、カウンターパートに対して行い、油圧昇降機を使った結氷板の安全な取り外し・取り付け、銅管加工・溶接方法等の技術の向上を図ることができた。

### ◆インパクト

#### 1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

クレーントラックの導入等、製氷施設の修理・修復の完了及び製氷機の修理・修復に係るカウンターパートの技術の向上により、プロジェクト目標は達成された。

今後、製氷施設が順調に稼働すれば、上位目標である漁業の生産性が向上し小規模漁業の発展に一定の効果を及ぼすとともに、フィジーが国家開発計画に掲げる「RFSC の活用」の達成にも寄与する。

## 2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、製氷施設が稼働し、周辺漁業者に氷が円滑に供給されるようになった。今後、製氷施設が順調に稼働すれば、漁獲物の品質向上により魚価の上昇が予想され、漁業者の所得の向上が期待できることから、対象地域の経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。

また、氷は地域住民にも供給されることから、民生向上に寄与し、対象地域の社会・経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。

## 3. その他(ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

本年度投入した積載量 7 トンクラスのクレーントラックを所有する組織は、フィジー政府内でも少ない。このため、本機材は漁業分野のみならず新型コロナウイルス感染症拡大により封鎖された村落への物資配給活動等、フィジー国民全体を対象とした緊急支援対策にも活用されている。

## ◆ 持続性

### 1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは水産局の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。

供与された資機材は、製氷施設の稼働及び運営・管理に必要なものであり、プロジェクトを通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

### 2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

クレーントラック等の導入により水産局ワークショップ施設の機動力が強化され、カウンターパートに対する技術移転が適切に行われたことにより、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、フィジー政府は、同政府が推進する「RFSC の活用」のために当該施設の継続的運営が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識し、施設運営のモニター及び財政支援を積極的に行うこととしている。従って、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

### 3. その他(持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等)

昨年度末と同様、新型コロナウイルス感染症の蔓延により職を失った観光業従事者の一部は自給的沿岸漁業を行っており、食料不足を補うために沿岸漁業に関する規制が緩和されている。沿岸漁業者の増加に伴う、漁獲努力量の増大により、沿岸漁業資源の枯渇が懸念される。

以上